

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 37

水清く流れる森の国・松野町

愛媛県 松野町長

おか たけお
岡 武男



森の国・松野町は、日本最後の清流といわれる四万十川の上流域に位置し、町の中心部を支流の広見川が流れている。流域を同じくする隣町の鬼北町と「広見川を美しくする協議会」が結成され、美しい川を取り戻すため、毎年清掃活動が展開されている。

その川のほとりに町の自慢である「虹の森公園」がある。公園には「おさかな館」と呼ばれる水族館がある。

おさかな館に入ると、奥深い上流の渓谷の情景が再現されている。屋外ジオラマ水槽である。8トン余りの水量の水槽には滝が流れ落ち、周囲には四万十源流の植物が植えられている。水中を覗くと、特別天然記念物のオオサンショウウオが、グロテスクな姿で客を迎えてくれる。

奥に進むに従って、屋外ジオラマ水槽にはアユ・マスの群れや、草魚が泳いでおり、更に進むとオオウナギ・オコゼ・川エビなどの飼育水槽が並んでいる。また、四万十川の河口に住む幻の魚アカメが、

名前のとおり赤い眼をしてゆうゆうと泳いでいる。

おさかな館には、四万十川の上流から下流域に住む、約70種・12000匹の魚類等が展示されているので、一見して四万十川の魚類を観察することが出来る。

出口あたりには熱帯地方に住む淡水魚展示館がある。アマゾン川に住む2メートル近くもある魚（ピラルクー）など、淡水魚とは思えない大型の熱帯魚が、パノラマ展示水槽で悠然と泳ぐ姿は圧巻である。

おさかな館を後にすると目と鼻の先に、広々とした美しい広見川が流れている。子供たちが魚つりや、石ころ拾いなどに興じており、夏には「森の国夏祭り」が盛大に開催され、花火が夜空を焦がし、川にまたがる大門橋は観客席に変身し、虹の森公園に特設されたステージでは、太鼓の演奏や歌謡ショーが行われ、お盆帰りの帰省客や町外からの観客で町の人口は2倍に膨れ上がる賑わいであった。



清流広見川のほとりにある「虹の森公園」



四万十川河口に生息する幻の魚「アカメ」



「おさかな館」の大水槽



夏のビッグイベント「森の国の夏祭り」